



beyond2020プログラム

房総里山芸術祭

いちはらアート×ミックス 2020

基本計画

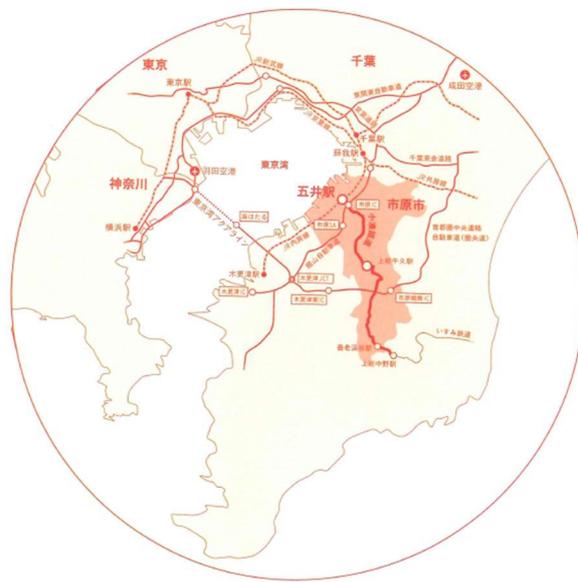


いちはらアート×ミックス実行委員会

2019年 3月

房総里山芸術祭 いちはらアート×ミックス 2020 開催に向けて

市原市は、都心からほど近い千葉県の中央に位置する人口約 28 万人の都市です。養老川の恵みがもたらす美しい田園風景、そして先人達が古来より守り育ててきた美しい里山、晴れた日には富士山も見え、菜の花の中をトロッコ列車が走る。都心から、また成田、羽田の両国際空港から近いという立地ながら、人々の安らぎと共感を呼ぶ日本の懐かしい姿を持っている、いわば“首都圏のオアシス”といった存在のまちです。



現在市原市は、まち・ひと・しごと

創生総合戦略のリーディングプロジェクトとして『世界に一番近い SATOYAMA』を掲げています。

「里山」という言葉は、日本人の心の奥底に響き、さらにより外国人にも注目をいただける市原市のブランドメッセージとなるキーワードです。

そして、アート×ミックスは、市原市の歴史・文化・自然・人の暮らし・食・スポーツなど、地域の持つ様々な資源を現代アートと融合（ミックス）し、里山に活力を漲らせ、より魅力的な「いちはら」を再発見する新しい形の芸術祭です。

2020 年、東京オリンピック・パラリンピックが開催されます。多くの人々が交流するこの機会に、オリンピック・パラリンピックの文化プログラムに位置づけ、「房総里山」の名を冠することで、市域を超え、市原を中心とした里山の魅力を広く国内外へ発信していくため、「房総里山芸術祭 いちはらアート×ミックス 2020」を開催します。

いちはらアート×ミックス実行委員会 会長 小出 譲治（市原市長）

<文化プログラム>



『房総里山芸術祭 いちはらアート×ミックス 2020』は、日本文化の魅力を発信し、多様性・国際性に配慮した事業として、“beyond2020”の認証を取得したことから、2020 年以降を見据えたレガシーの創出に資する文化プログラムとして取り組みます。

1. 開催概要

◆名称

房総里山芸術祭 いちはらアート×ミックス 2020

◆会期

2020年3月20日 ~ 5月17日 【59日間】

◆出品作家

予定40組（公募による作家含む）+既存作家

◆開催エリア

小湊鉄道を軸とした周辺エリア
（五井、牛久、内田、平三、高滝、里見、飯給、月崎、月出、白鳥、養老溪谷）



◆コンセプト

「晴れたら市原、行こう」

1. 地域の特徴・資源・産業・暮らす人々の文化を掘り起こす
2. 暮らしの集積について、現代アートを媒介に国内外へ発信する
3. 地域・世代・ジャンルを超えた人々が連携し、協働する
4. 観光インバウンドの飛躍的・持続的拡充の契機とする
5. 新しい旅行型美術展を提案する

◆房総里山芸術祭 いちはらアート×ミックス 2020 の目指すもの

1. 東京オリンピック・パラリンピックとの連動によるレガシー創出
⇒ 文化プログラムに位置付け、多角的なシティプロモーションを行う。
さらに、会期後も人が訪れるようなレガシーを創出する。
2. 市民意識の発揚
⇒ 北部から南部まで全市を挙げたイベントとし、市民への浸透を図る。
3. 新たな地域資源の活用
⇒ 「養老川流域田淵の地磁気逆転地層」をはじめ、アート、歴史・文化、食、スポーツなどの地域資源をミックスさせていく。
4. 市民との協働の深化
⇒ 地域住民、ボランティアなど、「ひとの活躍するまち」を実現する。
5. 広域連携の推進
⇒ 市域を超えた取組を進め、市原を中心とした里山の魅力を広く発信する。この取組を通じて、交流人口の拡大を目指す。

◆主催

いちほらアート×ミックス実行委員会

会 長 小出 譲治 (市原市長)
副会長 保坂 好則 (市原市議会議長)
榊原 義久 (市原商工会議所会頭)
松崎 浩一 (一般社団法人市原市観光協会会長)

構成団体 市原警察署、千葉県市原土木事務所、市原市町会長連合会、一般社団法人市原青年会議所、公益財団法人市原市体育協会、公益財団法人市原市地域振興財団、市原市農業協同組合、市原市物産協議会、養老川漁業協同組合、高滝湖観光企業組合、市原市PTA連絡協議会、市原市国際交流協会、市原市臨海部工場連絡会、市原市旅館組合、養老溪谷観光協会、市原市美術会、市原市工芸会、小湊鐵道株式会社、一般社団法人千葉県タクシー協会市原支部、東日本高速道路株式会社関東支社東京湾アクアライン管理事務所、東日本高速道路株式会社関東支社市原管理事務所、株式会社千葉日報社、千葉テレビ放送株式会社、シティライフ株式会社、株式会社いちほらコミュニティー・ネットワーク・テレビ、市原FM放送株式会社、市原みやげを考える会、元気な市原応援団、南市原里山連合、市原市教育委員会、市原市／オブザーバー 千葉県

◆ディレクター等

総合ディレクター 北川 フラム
アートディレクター 豊福 亮 (アーティスト)
デザインディレクター 色部 義昭 (デザイナー)
広報アドバイザー 佐野 弘明 (市原市広報戦略アドバイザー)

2. ロゴ

『房総里山芸術祭 いちはらアート×ミックス 2020』のロゴは、過去2回の芸術祭のアイデンティティである「赤帯」を折ることで生まれる形をデザインしました。



英語 3行バージョン



英語 2行バージョン



日英混合バージョン



日本語 3行バージョン



日本語 2行バージョン

3. 事業内容

◆アートプロジェクト

I. アート×地域資源

アーティストが制作活動や生活場所の1つとして地域に継続的に入り込み、地域の方々と共に地域の将来計画を見据えた活動を行いながら、新しい魅力を創出していく。

地域資源：養老川流域田淵の地磁気逆転地層、菜の花畑ほか

〔新規〕 チバニアン×アート

II. アート×建物再生

空き家や廃校を活用し、アトリエや美術館、レストラン等へ再生していく。

地域資源：空き家、廃校 等

〔事例1〕 アートハウスあそうばらの谷

〔事例2〕 廃校の再生／月出工舎・内田未来楽校

〔新規〕 旧平三小学校／旧白鳥保育所／牛久商店街ほか

III. アート×公共交通

鉄道や道路の施設、列車やバス、自転車などの乗り物をアーティストや建築家の手により、アート化する。

地域資源：小湊鉄道、バス停、駅トイレ、サイン 等

〔事例〕 森ラジオステーション／アーティスト：木村崇人

Toilet in Nature／アーティスト：藤本壮介

〔新規〕 小湊鉄道五井駅操車場ほか

IV. アート×食

地域に根付いてきた食文化を活かし、食を媒介にして里山ファンを増やしていく。

V. アート×体験

参加アーティストによる体験型のワークショップやパフォーマンスを数多く実施する。

VI. アート×女性／若手

地域に継続的に展開していく若いアーティストの参加を促す。

地域資源：廃校、空き家、駅舎など

VII. アート×海外

海外で活躍するアーティストを数多く起用し、インバウンド誘客の契機にする。

地域資源：廃校、空き家、駅舎など

アーティスト候補：ロシア、アジアのアーティストなど

VIII. アート×スポーツ（ピクニック）

市原湖畔美術館を拠点にし、バーベキュー／食の提供などを行う。
さらに、サイクリングやハイキング等とのコラボレーションを図る。
地域資源：市原湖畔美術館

IX. アート×経済（グッズ展開）

アーティストとコラボレーションし、グッズを開発・販売する。
地域資源：地域物産等

X. アート×ツアー

「房総里山芸術祭 いちはらアート×ミックス 2020」の魅力を存分に味わえるツアーを計画する。

～操車場から溪谷を巡るアートの旅～

- オフィシャルツアーで巡る日帰りコース
- 小湊鉄道＋二次交通で巡るコース

◆おもてなし交流プログラム

来場者へのおもてなしとして、地域の伝統芸能や神社・仏閣を紹介するプログラムや、地域の小中学生が参加する交流プログラムを実施する。

◆事業連携

会期中に実施される市内外の企業、団体主催の企画やイベントを連携事業として位置づけ、官民挙げて芸術祭を盛り上げる。

◆広域連携

いちはらアート×ミックスを通じて、近隣自治体や民間企業等と連携し、房総エリアの魅力的な観光資源を国内外に発信する。

4. 広報・誘客

開催地周辺の認知を高めるために、市原市や周辺自治体の住民向けに各種広報をきめ細かく実施する。

また、首都圏や全国に対しては、30代の働く女性をメインターゲットとし、各種メディアとのコミュニケーションを行うとともに、便利なオフィシャルツアーを用意し、ツーリズムと連動した広報を展開する。

◆メディア・リレーションの強化

ターゲットごとに広報戦略を立て、定期的な話題づくりのもと、メディアへのプレスリリースや宣伝営業活動を行い、コミュニケーションを活発化する。

- ① テレビ・ラジオ
- ② 新聞・雑誌等の印刷媒体
- ③ WEB（SNS含む）

◆オフィシャルツアーからの誘客

芸術祭の魅力を堪能できる便利なオフィシャルツアーを用意し、積極的に広報することにより、誘客を促進する。

◆インバウンド対応

外国人来訪者の増加を目指し、広報、受け入れ対策を推進する。

- ① 海外・日本在住外国人への広報アプローチ
- ② 海外旅行代理店への働きかけ
- ③ 案内表示やホームページ・印刷物の多言語化（英語・中国語等）
- ④ キャッシュレス化の推進

5. 交通

芸術祭会場等を結ぶ交通対策として、以下を実施する。

- ① 周遊バス : 小湊鉄道の主要駅を発着点とする周遊バスを運行する。
- ② 駐車場 : 各会場には、無料駐車場を用意する。
- ③ 多彩な2次交通 : 小湊鉄道の駅から利用できるレンタサイクルほか魅力的な2次交通を展開する。
- ④ オフィシャルツアー : JR五井駅発着の便利なツアーメニューを用意する。

6. パスポート販売等

◆作品鑑賞パスポート販売

広域エリアで数多くの作品を展開する芸術祭において、お客様に最大限に楽しんでいただくために、すべての作品が鑑賞できるパスポートを提供する。販売促進のため、魅力的な内容と価格および購入特典を設定するとともに、購入しやすい複数の販売窓口を設ける。

◆企業協賛

市内及び市原市にゆかりのある企業を中心に協力を要請する。

◆ふるさと納税

個人からの寄附を募る方法として、ふるさと納税を活用する。

7. 運営支援・参加

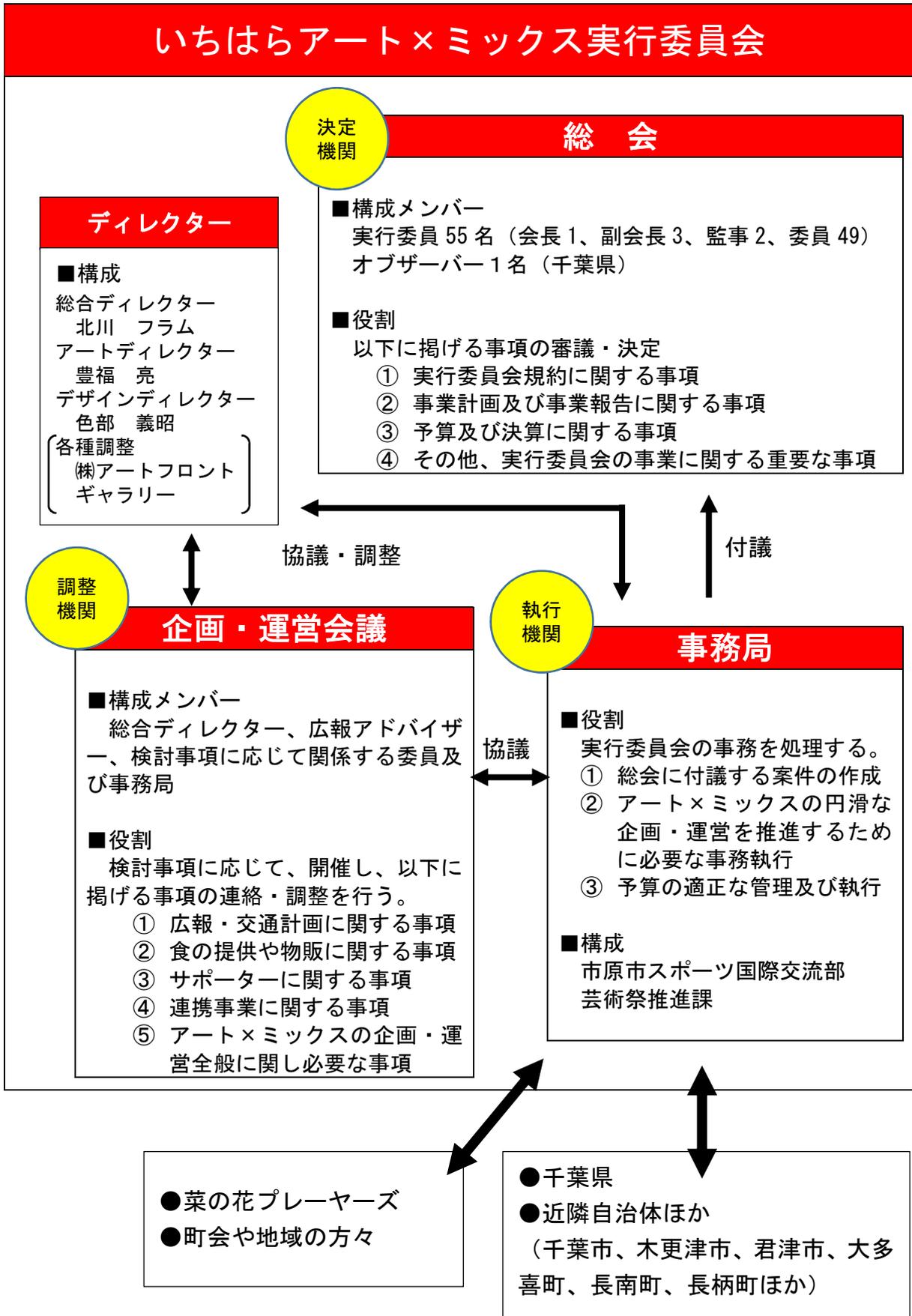
◆菜の花プレーヤーズ

いちほらアート×ミックスのサポーター組織である『菜の花プレーヤーズ』の新規加入を促進するため、募集ポスター及びフライヤーを作成し、大学、高校、企業などの団体に重点的に呼びかけを行うとともに、実際の活動となる作品制作の機会を多数用意し、参加する楽しさを広く知ってもらう。

◆町会等

会場周辺町会の住民や里山団体に受付や作品制作に参加していただけるよう、働きかけを行っていく。

8. 実施体制



9. 事業費

(収入の部)

(単位：千円)

項目	2018 年度	2019 年度	2020 年度	合計
市補助金		236,640	82,770	319,410
市一般財源		121,640	62,770	184,410
国補助金		80,000	20,000	100,000
寄附金		20,000	0	20,000
基金繰入金		15,000	0	15,000
県補助金		2,000	2,000	4,000
事業収入	パスポート等販売収入	10,950	31,000	41,950
諸収入	民間助成、利息等	0	1,000	1,000
事業継続準備金	8,270	0	0	8,270
合計	8,270	249,590	116,770	374,630

(支出の部)

(単位：千円)

項目	2018 年度	2019 年度	2020 年度	合計
アートプロジェクト費	2,500	165,000	52,500	220,000
ディレクター費	2,500	10,000	7,500	20,000
作品制作費・イベント開催費	0	155,000	45,000	200,000
イベント運営費	3,500	37,730	49,600	90,830
広告宣伝費	2,000	37,350	6,800	46,150
ホームページ制作管理費	2,000	2,400	0	4,400
広告料	0	7,850	400	8,250
広報宣伝費	0	27,100	6,400	33,500
サポーター活動費	20	3,750	4,100	7,870
施設管理費	0	4,460	3,270	7,730
事務局運営費	250	300		550
予備費		1,000	500	1,500
合計	8,270	249,590	116,770	374,630

10. スケジュール

		2018年度	2019年度			2020年度	
		1-3	4-6	7-9	10-12	1-3	4-6
総括	総会・ 企画運営 会議	◆総会			◆総会		
	事業計画	◆基本計画決定			◆作家・プラン確定		
アートプロジェクト	作品制作	アーティスト選定		作品制作			
	市原湖畔 美術館	公募・決定					
会場・駐車場整備					会場・駐車場整備		
おもてなし交流 プロジェクト				おもてなし企画・交流			
事業連携・広域連携			連携協議・推進				
広報・誘客		◆デザイナー決定		公式WEBサイト更新			
		◆春PR	◆夏PR	◆秋PR	ツアー企画検討		
パスポート・ ガイドブック販売				◆デザイン決定		◆販売開始	
寄附・協賛			寄附・協賛募集活動				
運営支援	菜の花プレ ーヤーズ		募集活動				
	町会・ 市民		活動（作品制作・会場受付等）				
			説明会・活動参加				

房総里山芸術祭 いちはらアート×ミックス2020